

湖南文庫
その他



湖東文庫寫

芭蕉門古人真蹟 (正) 蝶夢編

たひし欠りあり

煉淨銀朱市と海ふよ許

製千埴よ煖美より之

昔^{アノ}庵^ニ有り成僧寺也 丸

洲ありけり鶴相漢兵衛許

洲燒れ蚊倉打り家私格之



一 悲しき哥のうらみは

松の枝の影に解散す

四ツ井の計に能く入る

カス 雲と初月は

一 小境見分る雲は

難哉や秋眉涼を

一 解よ葉のほろり

一 月影よ秋の影に

明月を悲死を

一 楓の影を

鶴の足は白く波あまれの浜

1 鳴神の聲も戀川ら雲

1 亂れ流不知塔此らら丸

1 大真のまふ量り元東井許

1 月は裡れ民の趣り並
夕陽のあけび又焚くト

1 丸霧のろく包る灘の底も丸

10 舟の堂よお寄まらせ許

胎ぬふ妹の男子ははかり

1 東はるちれおのい書み丸

1 煙の糸一をれおの笑通て許

凡 鳴 声 出 る 蜂 へ 似 せ し

名 形 通 ぶ 置 け 筋 此 塵 々 八 九

凡 美 戸 細 明 懸 所 許

凡 風 此 葉 子 糸 木 此 枝 道 全

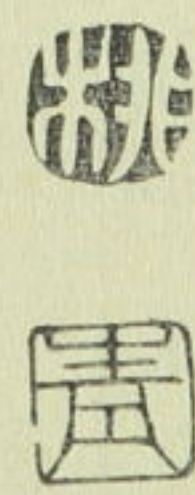
凡 視 子 日 端 此 日 終 糸 糸 糸 糸

凡 葉 子 續 糸 糸
凡 備 置 此 表 此 崖 此 枝 道 全

凡 約 音 此 表 此 糸 糸 糸 糸

二十点
内七

武陽道意齋桃書



上六

北より来る霜のつる事や
蟬吟
のこ

あつたはるの事
藤堂氏筆

依阿室寄附湖南

義仲寺

ササキ 輝以經冊 一枚

長久 探丸古歌經冊 一枚

花蕉点歌仙 一巻

古

藤堂氏藤原良躬

曰家父又十の歌を空の心
 心乃夫や又子れとにあらと
 草をみよとて母をほしむる
 心は空にあらとて
 心は空にあらとて

拾穂軒季吟老人真蹟二物詠帖

洛陽古靜寄進

諸惡業作
大慈大悲觀世音
衆善奉行
佛頂

蕉翁禪味與佛頂和尚有故法嗣也梁得其
真蹟傳之白雄白雄亦拙衲惠焉尤翁以
所尊信藏之粟津文庫云

釋祖明識

繫船蘆荻間蓬
底睡眠閑林葉
逐風到良疑雨
出山

直愚出

蕉翁引導之師義仲寺直愚上人詩偈

寄附主 義仲寺門前住人若山應澄

上送無名
三月廿二日

少知如年下
一三由之古
長毛しり
了り
其成何人

了り
了り
了り

公相舎兄予之
安永子十月
伊賀淳流

是日...
...
...

古

...
...
...

片方 消息 丁酉
接離 紙冊 丁酉

伊賀上野郡長川町
接離重孫孫少相由

寄附

...

...

...

伊賀上野郡長川町



先師の懐舊

ゆめを枯世をわけやううえ石返の
連まうつるまゝのわらう二十七年
とまわしその尾花うやまのや
ちうのふつゝいせし物うま
おほら今俳歌のすゝこま
おと曲うるすゝこまをんた
くしやたるあま同く
らんさかみりて断 枯尾花
それとるまゝのわらうのうこ

いけのつらんまうこまをんた
をうすししれを

山半後

伊予守彦子法

伊陽城下

山岸棟家舟

可方方利子孫長壽
家多子孫長壽
周子孫長壽
唐子孫長壽
正作之孫長壽
會之孫長壽
是子孫長壽
二子孫長壽
子孫長壽

切之方方利子孫長壽
九子孫長壽
子孫長壽
子孫長壽

土方換

配力

配刀書翰之切

孫

何某清三寄附

夏水句
 古月かゝるはよもほのこゝろの
 心白見えぬ さらば舟楫
 え初めの一板

百歳子業 かき宗 何某寄進
 斎 せう

りきあはるは麻れまとう
 しきとくくまは
 妻寄し麻れ物や花だけ
 終白花うしし次は白朝霞を
 とけく古里よかす言
 宗良松やさるおとくか雛子色
 或之

雪担文或之流り寄進

伊場 濱氏徳忠

式	村	正	苞
之	鞆	木	蕉
			翁
			又
五	三	又	

名木筆 曾孫 爲文寄附
半秋仙句數也

甚く〜し来冬海り野に
 露乃以てとらぬ露乃乃積り
 行月はあらぬたかり道り
 長力煙之のふきの志つこ
 新しき新しきとあはれと
 新しき新しきとあはれと

悟教

此物也翁臨滅之辭而俳諧之遺教經也於是乎雖之家相
 傳以為祕寶今茲曾孫相而于疾病矣乃謂貧道曰凡天下
 之物常傳于嗜者而止于不嗜者矣未知余死後歸于誰家
 也遂屬貧道以藏于湖南義仲寺云

右暴風卷一策元祿七年甲戌之秋阿翁在伊賀州猿雖宅
 同諸子賦之淨書者卓袋書之而今日昔集業既載焉烏乎
 此物也翁臨滅之辭而俳諧之遺教經也於是乎雖之家相
 傳以為祕寶今茲曾孫相而于疾病矣乃謂貧道曰凡天下
 之物常傳于嗜者而止于不嗜者矣未知余死後歸于誰家
 也遂屬貧道以藏于湖南義仲寺云

天明壬寅十月十二日
 蝶夢幻阿識

大才好抄
 此物也翁臨滅之辭而俳諧之遺教經也於是乎雖之家相
 傳以為祕寶今茲曾孫相而于疾病矣乃謂貧道曰凡天下
 之物常傳于嗜者而止于不嗜者矣未知余死後歸于誰家
 也遂屬貧道以藏于湖南義仲寺云

昔難波の浦に
 舟をるぬいよ
 いらしーくさわーの屋のあま
 くまきあとのまふあふとーしあまは
 まちんとつてえうほしと賊とついで
 きちんとつてりぬを郷いとのまあを
 さういぬきつ日るあきく書いあんと

湖の長舟を乗こ
 揺揺カこし船の
 お撲まきしけて
 くらげは山は村の
 有海にりりし
 柳にまき馬力

昔 力 雲 袋 若 白

夢く存人徳心 八代士 盛
 新く 徳心 存人 好也
 非 徳心 存人 好也
 平 徳心 存人 好也
 行 徳心 存人 好也
 花 徳心 存人 好也

大 徳心 存人 好也
 平 徳心 存人 好也
 行 徳心 存人 好也
 花 徳心 存人 好也

右暴風卷一策元禄七年甲戌之秋阿翁在伊賀州猿雖宅
 同諸子賦之浄書者卓袋書之而今日昔集業既載焉烏乎
 此物也翁臨滅之辭而俳諧之遺教經也於是乎雖之家相
 傳以為祕寶今茲曾孫相兩于疾病矣乃謂貧道曰凡天下
 之物常傳于嗜者而止于不嗜者矣未知余死後歸于誰家
 也遂屬貧道以藏于湖南義仲寺云

天明壬寅十月十二日
 蝶夢幻阿識

昔雅波の浦 嫁乃夫婦す
ゆきさめい 嫁乃夫婦す
ハこら 浦乃夫婦す
くま 書乃夫婦す
ま 書乃夫婦す
ち 書乃夫婦す
さ 書乃夫婦す

ちきんよわらういみき連のゆよ
えつけゆいかい男いあまゆけい情
かなまよあとからゆかほい
同く

あめいしとをきいあき
い 雅波の浦ハ信ら
あめいしとをきいあき
い 雅波の浦ハ信ら

つとむ一ゆ一ぬ用方のゆし平ん入
つきの日るへのゆしつらまのるん
一ゆらぬいさ

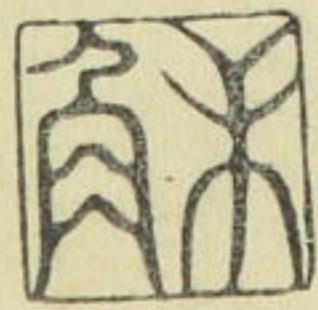
丈草禪師手跡歌書切
寄附
湖南 青奇

は
く
く
梅
の
後
の
詩

尚白曾孫
江左車寄附

秦嗣子那
角上 真跡

西湖堅固本福寺
曹孫蒲者坊角



末乃筆
うきし
ちよひ

角上
し

拓部
子那
焼
子那

松林より化移る世や中云かりし

岩城村といふあり船よりせあきしうき

川尻半山村といふあり人あきききり

いふありききききききききききき

伊藤お山おの山牛の川乃白鳥

倉嶋の古海あり船を被つると細き

米洗ぬ水千浜谷も有れ治乃舟は

あかり川尻をくく一棹を枕と海を

くくくくくくくくくくくくくくく

あきききき

よきよきよきよきよきよきよき

文日言遣つる海路いつたりきき

らきききききききききききき

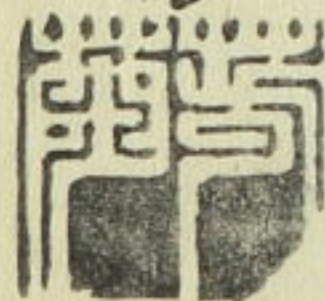
一谷えてくは家日記秋のしき

竹青堂正秀の由縁より書海

きききききききききききき

湖南栗津松本

徳長



あらしのえ

き



早う

ち月

秋乃軒 瑞乃 ち月 花乙列

智月画説
乙列短冊

あらしのえ

粟津

可風

舎才

江雨寄附

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

おのれをばかぢや

予嘗とくく書方申りて流るるは
 何れもなき目らりては其
 中一筆も修りぬる事
 随少少の何れも是れ
 及持て居る好む。此
 うし拙るるころは報り
 して下は流るる事也

松
 石

石

石

石

右後難段傍也
 けとまり梅の香やにけとまり

奉納酒堂琢碩筆跡

湖南松瀉菴巨洲



本昂者余岳翁之父此其蹟之
 其家所藏而裁一篇其也

平安時山懸



浄—家真宗の官位を

いへ 廿二を 壽佛 かん

光如やうのやうに かん

い— かん

法 善と持の かん

浄—彼國の華— かん

百餘の住— かん

かん かん かん かん

の— かん

かん

女 貞 信

かん

辨

かん

元時元祿七年

早 子乃日

法南成借幼進

道



路通文章一篇

唯泉寺魯江寄附

上九

歲暮

筆

昌房

昌房手跡

昌房孫

磯田雨橋

寄附

安のそとに
はるはたけのそとに
うしろのそとに
とらふそとに
おとせぬそとに
おとせぬそとに
おとせぬそとに

上子

うしろのそとに

昔は曲翠筆物
安是筆橋母

うしろのそとに
うしろのそとに

真春

福

如

上
辛

庵

上三

一如子



蕙香筆

乃為人堂
〜〜〜

國分山舊菴額寫三字

湖南 福田五来寄附

笑

一ふりーや包

きり

一むじりーのこ

一袋

たのむきぬへりーのむか

わーりーの

江ふき

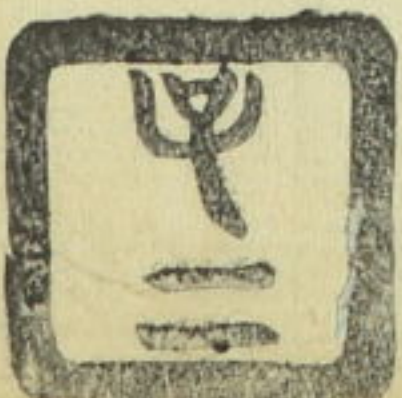
米倉市きり

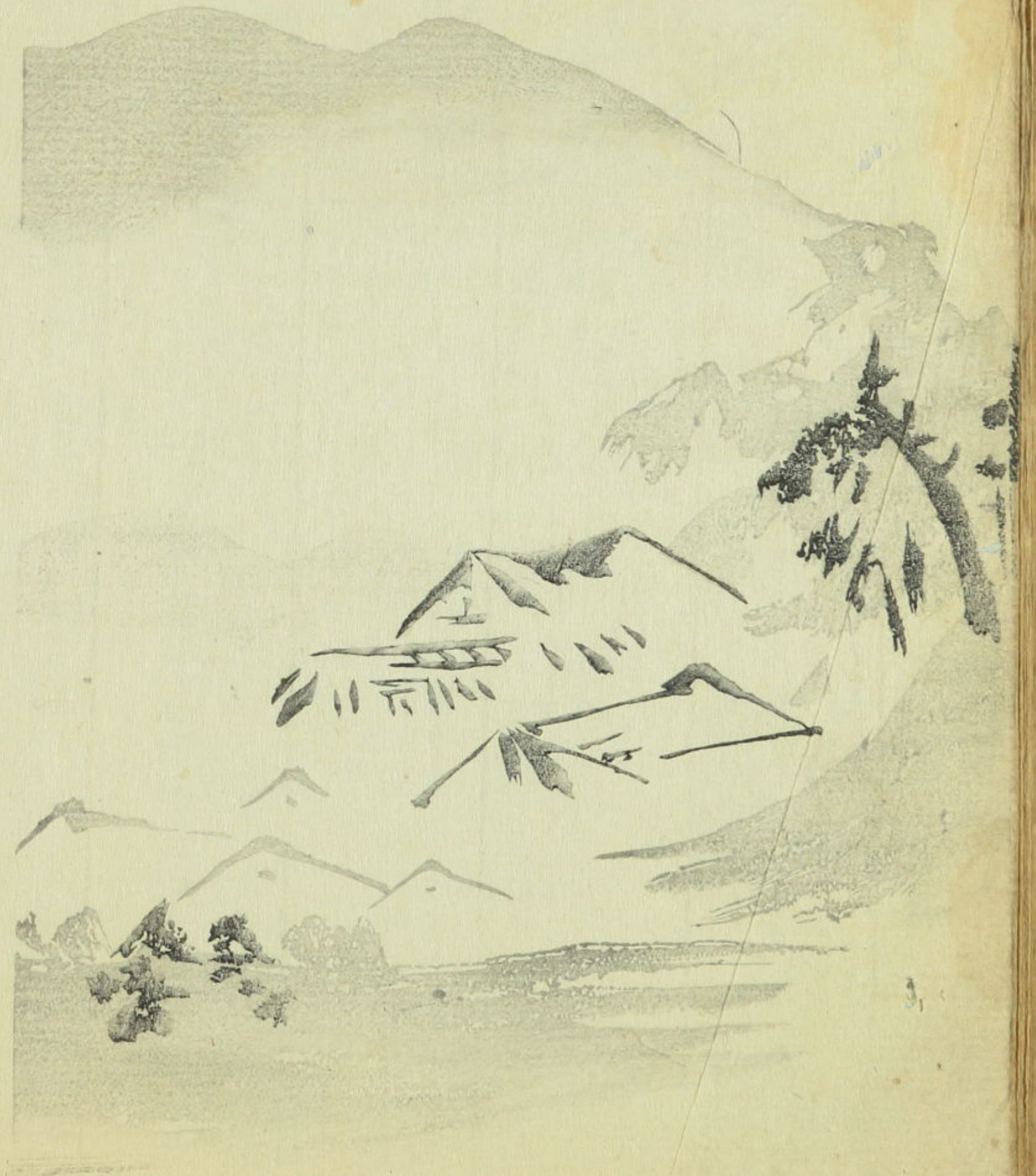
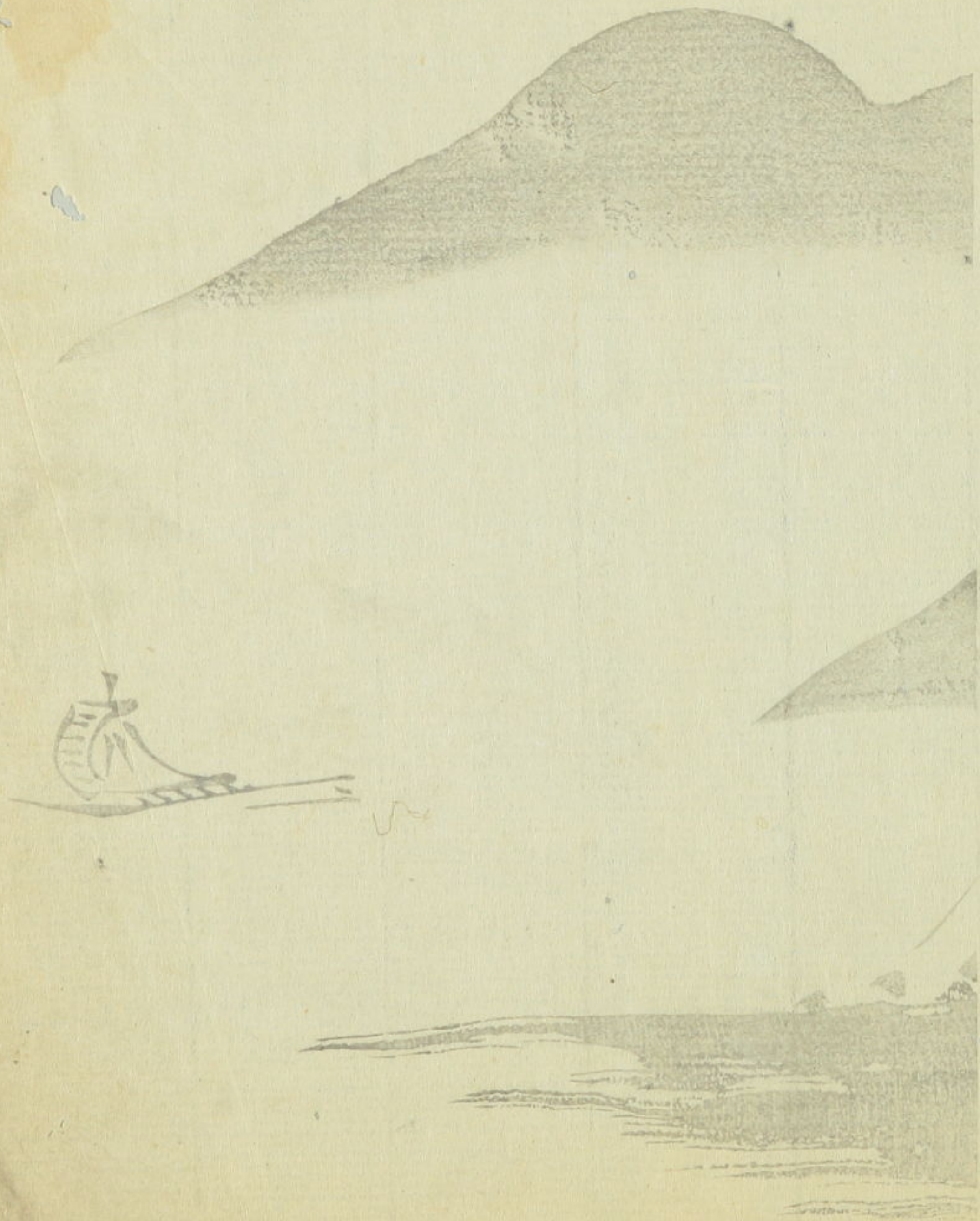
七十三

東園子法名書院

東津藩州寄附

五老 五維





山水

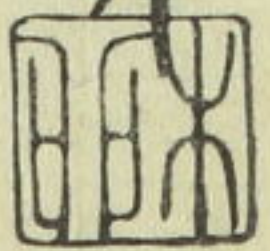
許六山水之画 寄附湖東 馬瓢

五尾云云志之少知らるる花性 馬

四霖序短冊

安永十辛丑正月寄附

壻孫木卯



臘八や火傷より心平乃既木導

木導 埋火短冊寄附

湖東土田住人 曾我塘里

夕日見ればわがもともやわがもとも
 葉のよもよもひつららん早の書
むらゝ山日家屋つ七世しなつて
 編しなつてつらつてつらつてつらつて
 々々母のよつてつらつてつらつてつらつて
 ありつてつらつてつらつてつらつてつらつて
 ありつてつらつてつらつてつらつてつらつて
 免れたるや早見一床も新顔そと 素堂
 六位のちりまゝつらつてつらつてつらつて 汶村

汶村
 素綱

韻塞集之内
 江品川瀬之庄

野村正光

上
 年
 月

